

# 住空間と生活時間との関係について。(その1) 時間量

三重大学 中島春代子

目的 家事労働や余暇が、住空間とどのような関係を持つかについて、生活時間を軸として、みることにより把えようとした。これにより、家事労働を軽減し、自由時間を増加させる住空間を追求しようとするものがある。家事労働や余暇は、時間量のみだけでなく、その内容とも深く関係しているが、本報では、主に時間量を中心に検討し、その内容については、次回以降に回すこととする。又、本報は、サンプル数も少なく、後述設定のため予備調査も概し出ない。

方法 津市内の日本銀行の社宅と社寮に、留置きアンケート調査を行った。時期は、52年7月11日～16日である。住宅型として、2DK, 3K, 3DK, 3LDKを採用し、生活時間調査の有効票129軒のうち、専業主婦の家庭106軒を中心に検討した。

結果 ①家事時間、自由時間、生理的必需時間とも、50年NHKの生活時間調査とほぼ等しいが、年代が若い層に於ては、子供と遊びを含まず拘束的自由時間が多い。②自由時間量は、家族周知、家族人数、年齢、最終学歴と関係を持ち、その各々の要因を同一にした住宅型と比較では、3Kが一番自由時間が長い。また、自由時間の二まじり度をもとに一番短い。③家事時間量は、家族周知、家族人数、年齢、最終学歴と関係を持ち、自由時間量と同様の方法で、3K型が一番長い家事時間量を持つ。④一人当り居住面積、台所タイプ(K, DK, LDK)と家事時間量、自由時間量との関係は、前者は、面積が大きいほど自由時間が長く、家事時間が短くなり、後者は、K型とDK型及びLDK型との間には、自由時間、家事時間に差がみられた。